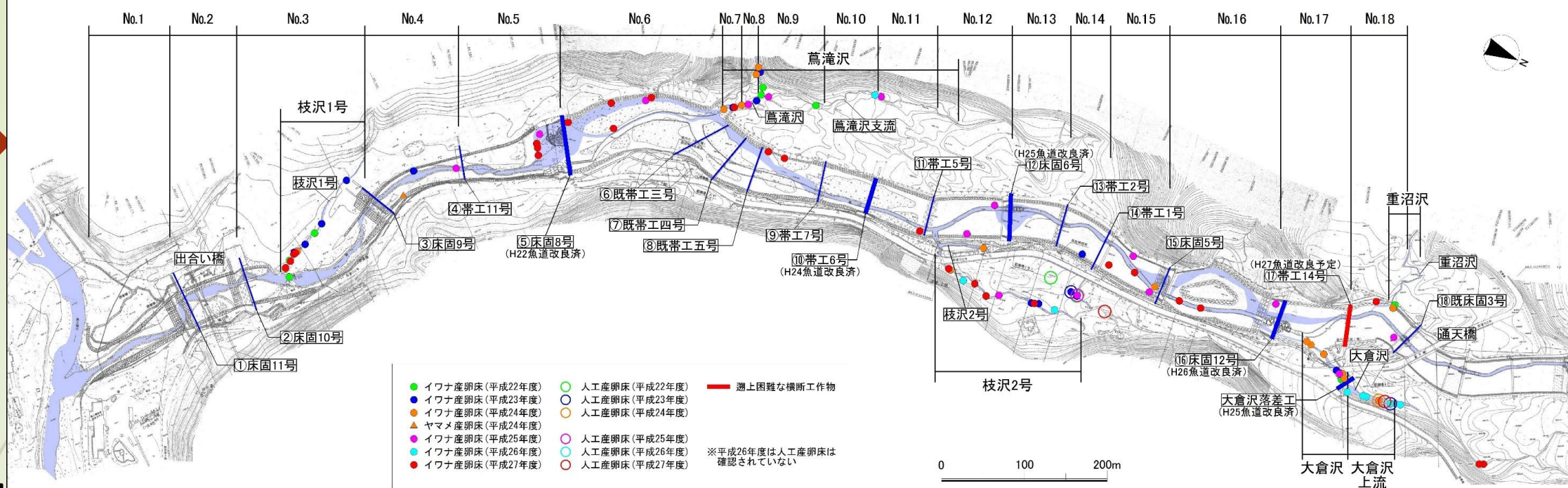


令和6年9月3日実施 奥入瀬川水系・鳶川における 魚類の移動経路の維持活動 (魚道点検調査)





【今までの経緯】

平成6年度竣工した鳶川砂防事業により整備された流路工・魚道などが、その後の出水等により損傷・埋没したことから、魚道の改良を平成23年度から27年度まで県により行われました。

一方、平成22～28年度に魚道改良工事と並行して行われた、整備効果を把握するための青森県による「鳶川砂防整備環境調査業務委託」により、各魚道の整備後における魚類の利用や支川において産卵床が複数確認されたこと、また、同様に平成19～令和4年度に行われた当会の「イワナの人工産卵床づくり」活動においても、産卵が多数確認されたことから、工事と相まって、鳶川では「イワナが安心して産卵できる川づくり」がなされたと考えられました。

以上から、「人工産卵床づくり」は令和5年度で終わることとしました。しかしながら、魚道の経年的な劣化や出水等による不測の破壊等が今後も発生しうることから、魚類の移動経路である魚道の適切な維持管理が必要と考え、「魚類が遡上・降下することが困難な状況の迅速な把握と速やかな復旧」ができるよう、改良された魚道6箇所を、県と当会が協力して定期的に行うこととしました。

令和6年9月3日に、清掃活動とともに、堆積土砂や洗掘等の有無などについて、第1回目の魚道点検調査を行いました。



床固 8号



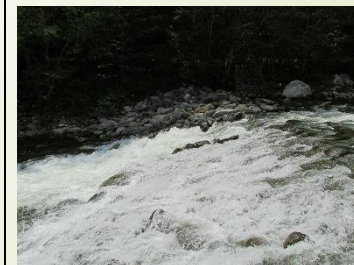
帯工 6号



床固 6号



床固 12号



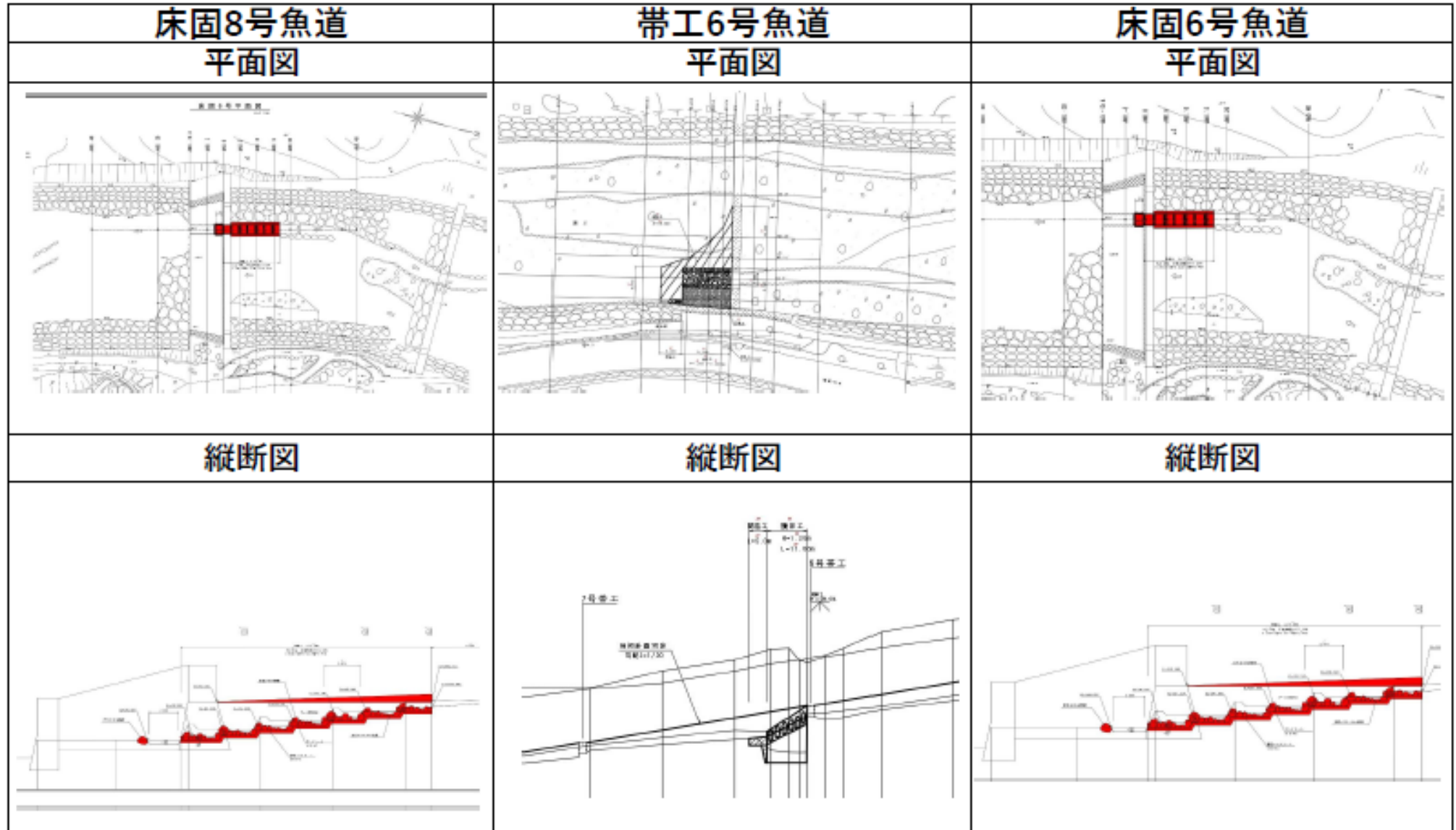
帯工 14号



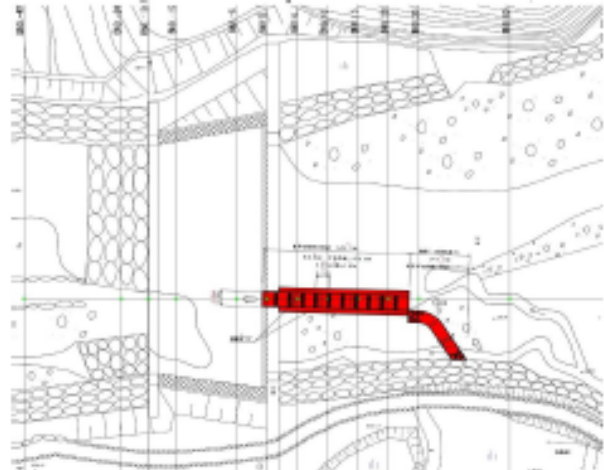
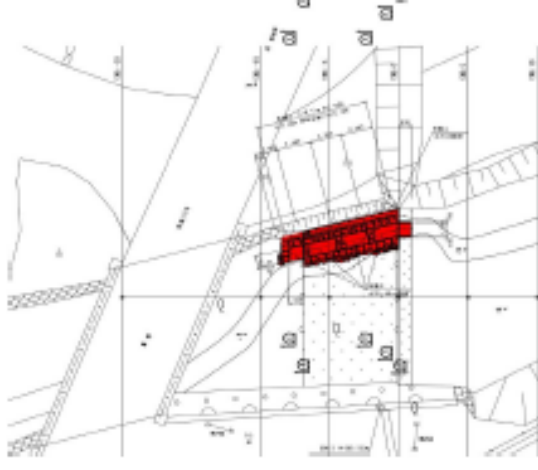
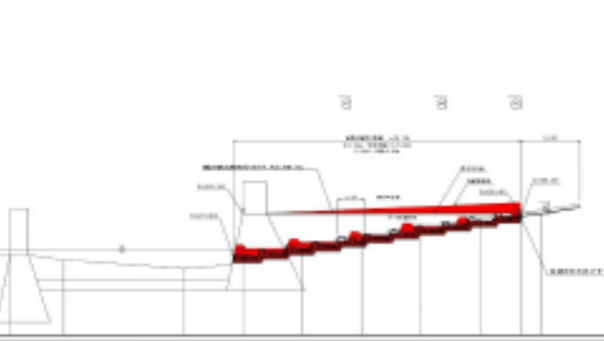
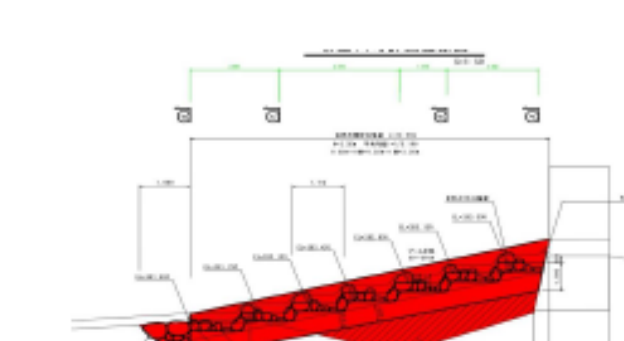
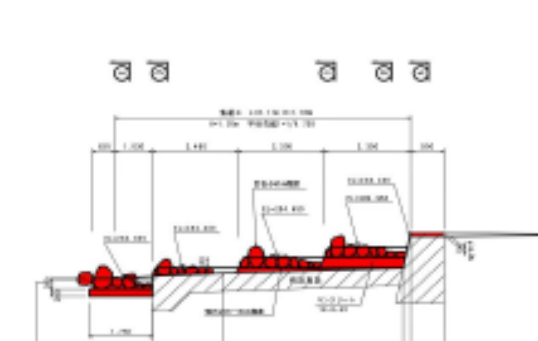
大倉沢落差工

(1) 蔦川魚道平面図・縦断図 (1 / 2)

蔦川魚道平面図・縦断図



(2) 蔦川魚道平面図・縦断図 (2 / 2)

床固12号魚道	帯工14号魚道	大倉沢落差工
平面図	平面図	平面図
		
縦断図	縦断図	縦断図
		

(3) 蔦川魚道点検用紙

蔦川魚道点検用紙

点検日時： 年 月 日 ~

	蔦川 本川 (下流→上流)								
	床固 8 号魚道			帯工 6 号魚道			床固 6 号魚道		
	下流	本体	上流	下流	本体	上流	下流	本体	上流
魚道の破損 (有×又は無○)									
堆積土砂 (有×又は無○)									
流 木 (有×又は無○)									
ゴ ミ (有×又は無○)									
洗 掘 (有×又は無○)		—			—			—	
遡上・降下可否 (可○又は否×)									
特記事項									
	蔦川 本川 (下流→上流)						蔦川 左支川		
	床固 1 2 号魚道			帯工 1 4 号魚道			大倉沢落差工		
	下流	本体	上流	下流	本体	上流	下流	本体	上流
魚道の破損 (有×又は無○)									
堆積土砂 (有×又は無○)									
流 木 (有×又は無○)									
ゴ ミ (有×又は無○)									
洗 掘 (有×又は無○)		—			—			—	
遡上・降下可否 (可○又は否×)									
特記事項									

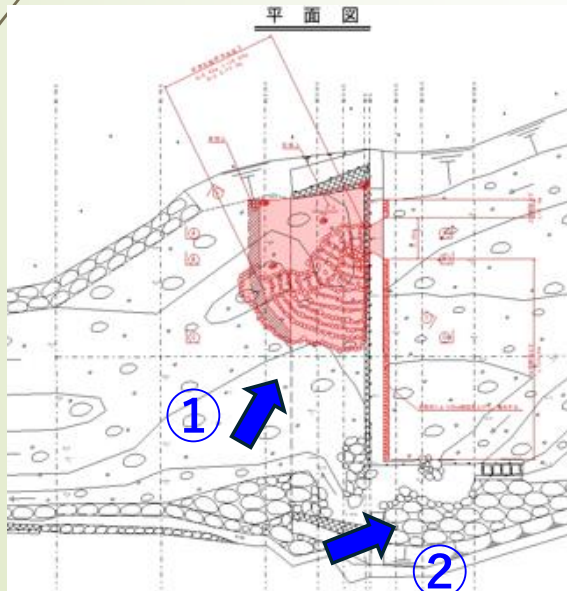
【点検結果と対応・改善点】

点検を行った6箇所の魚道の内、特に、今後対応が必要とされた、**床固8号魚道上流、床固12号魚道、大倉沢落差工** についての点検結果と対応及び点検調査方法の改善点を御紹介致します。

(1) 床固8号魚道

鳶川魚類の移動経路の維持活動(魚道点検調査) -点検結果と対応について-

施設名	点検調査における特記事項		対応策(案)	打合せ結果(今後の対応)	備 考
床固8号魚道	1	本体上流右岸部に、堆積土砂(中州)があり、詳細な点検か経過観察が必要	◎本体上流右岸部に、堆積土砂(中州)があり、除去か経過観察	○調査時、河川の水量が少なかったため、今後の堆積土砂の変動状況等を経過観察し除去の是非についてはその上で判断する。	
	3	・中州の経過観察必要 ・手前側での遡上は厳しいのでは	※3:手前の魚道は初期の魚道で、その後の改良で右岸側に魚道が新設されている。		
	4	中州への堆積 経過観察			



①

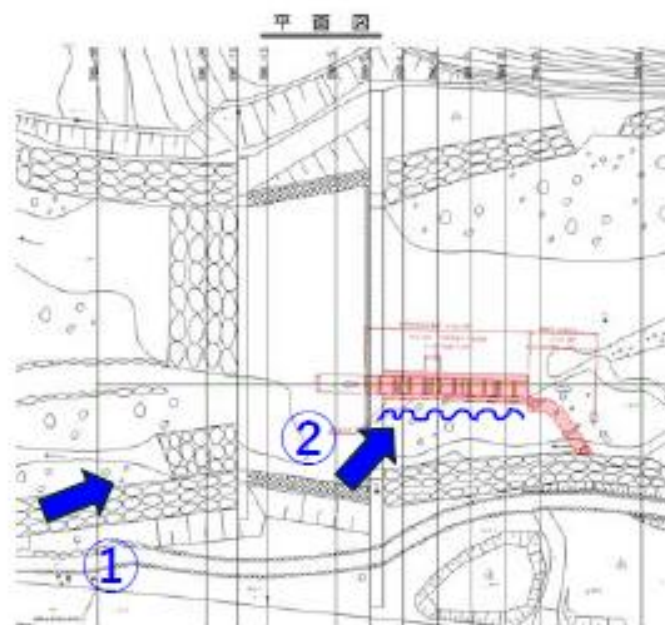


②

(2) 床固 1 2号魚道

薦川魚類の移動経路の維持活動(魚道点検調査) -点検結果と対応について-

施設名	点検調査における特記事項	対応策(案)	打合せ結果(今後の対応)	備 考
床固12号魚道	1 所要の時間まで点検できなかった	◎下流左岸部の低水路の開塞部の解消等の対応案の検討 ◎魚道部の左側背面が流され、空洞となっているため、対応案の検討を要する。	○魚道背面に洗堀が見られる。魚道の施設台係と断面を比較し、本体に影響ないか確認をする。緊急性はないが、令和7年度に協議を行い、進行防止の対策を行う。補修例として「モルタル+自然石(現地流用石)」が考えられる。	
	2 下流側左岸部の歩道沿いに、低水路が整備されているが、上流部開塞により流れていないため、開塞部の開削が必要と思われる			
	3 下流の護床工が流されている			



①

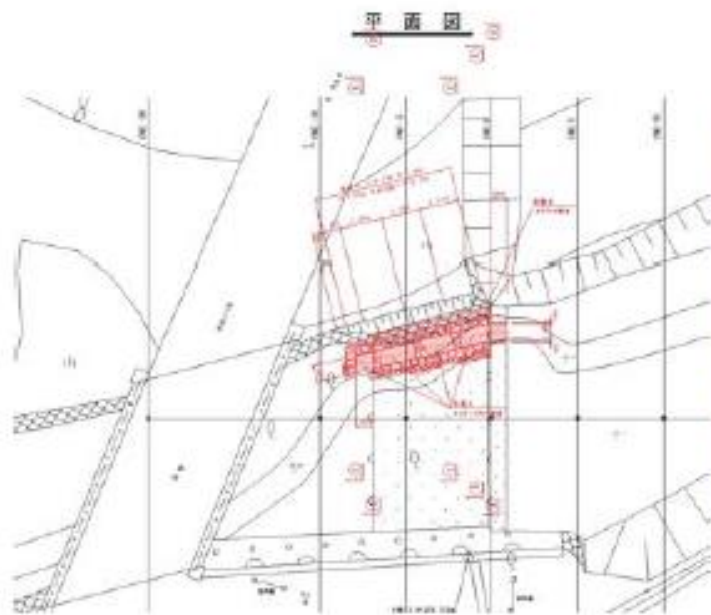


②

(3) 大倉沢落差工

薦川魚類の移動経路の維持活動(魚道点検調査) -点検結果と対応について-

施設名	点検調査における特記事項	対応策(案)	打合せ結果(今後の対応)	備 考
大倉沢落差工	1,2,3,7 所要の時間まで点検できなかった	◎魚道内の土砂堆積、雑木繁茂あり、指示を受けて、雑木伐採と堆積土砂の撤去を行った。 ◎次年度以降も経過観察が必要と思われる。	○土砂堆積や雑木伐採の処置が行われ良好であるが、魚道勾配が緩やかなため、今後も土砂の堆積等が発生する可能性があり、定期的な観察と必要に応じて土砂撤去を行う。	
	5 魚道内に土砂堆積がみられるが、流水はあるので、遡上は可能と考える。要経過観察。			



対策前 2024年10月4日



対策後 2024年10月18日



（４）鳶川魚道点検調査の方法について

鳶川の清掃活動と並行して下流側から点検を行ったが、活動時間内に点検を15名の全点検者が終えることができなかったことから、次回点検の際は、3班体制にして、1班あたりの魚道の点検を2箇所のみとするなど、点検方法の改善を行い、目視点検のみに加え、計測も加えた点検を行うこととしたい。

【最後に・・・】

鳶川清掃活動は青森県砂防ボランティア協会との共催ということもあり、鳶川砂防事業に関わった同協会会員の方々にも点検をして頂きました。今年度も引き続き、関心をお持ちの方々など、多くの方々のご参加をお願い致します。

ご静聴ありがとうございました。